3.17

総合科学部3学科を
総合科学部社会総合科学科に改組

2016年（平成28）4月

総合科学部は教育学部を前身とし、1986（昭和 61）年以降教養部との統合を 経て人文・社会・自然の学問分野の枠にとらわれない多面的な視点から現代の課題を解決する人材を養成するとして、人文・人間系の人間文化学科、自然科学系の総合理数学科、人文系と自然科学系を統合した社会創生学科の 3 学科構成で教育を行ってきた。そして、21 世紀の多様なニーズに応えるため、2016（平成 28）年 4 月には、理工学部・生物資源産業学部の発足と同時に、人文系と社会系の学問を中心とした社会総合科学科の 1 学科体制を発足させ、国際教養・公共政策・心身健康・地域創生の 4 コースを置いて、グローバル化が進む現代社会の様々な課題を解決する人材養成に取り組む教育を行うことを目指した。教育理念として掲げたのは、人文・人間・社会・地域・情報の諸科学における専門知識や専門技能、技術を身につけ、専門分野の融合を図り、現代社会の諸課題の的確な把握・解決に対応できる実践力のある人材養成である。これを実現するために、総合科学実践講義と総合科学実践プロジェクトの新規科目を開設し、実践力育成に努め始めた。総合科学実践プロジェクトは、特定のテーマの下に社会と連携した実践的な取り組みを行う科目で、学外の諸施設、自治体、NPO 等の団体と連携・協働して体験型の実習を行う科目である。この科目の中には、海外でのフィールドワークを行う科目も含まれ、まさにグローバルな諸課題に実践的に取り組むことを目指している。テーマの例としては、「心身健康維持プロジェクト」「国際交流・協力体験プロジェクト」「政策実践プロジェクト」「アート創生プロジェクト」「地域社会文化プロジェクト」「海外体験プロジェクト」等があり、学部の 4 つのコースの特徴的な教育を実践的に学ぶ科目群となっている。1 学科となった総合科学部においても従来と同様、教員免許や学芸員資格、社会調査士、認定心理士、健康運動指導士などの資格取得も可能とした。